

佐藤国際交流賞

佐藤国際交流賞は、佐藤昌氏が社団法人日本公園緑地協会会長、名誉会長として長年に亘り我が国の公園緑地行政の発展並びに海外諸国との専門的交流や東洋、欧米諸国の公園緑地制度等に関する数々の優れた研究著述を通じ、造園分野における我が国の国際的地位の確立に大きな貢献をされたことを記念し、平成4年に設けられました。この賞は、公園緑地分野において「国際的な交流の推進に功績」があった方に贈呈するものです。

第33回佐藤国際交流賞受賞者（敬称略・個人団体順）

とだ よしき

戸田 芳樹

現 株式会社戸田芳樹風景計画 代表取締役会長

ランドスケープアーキテクト連盟会長

受賞理由

氏は、2019年にランドスケープアーキテクト連盟（JLAU）会長に就任して以来、公園緑地を始めとしたランドスケープ分野の国際交流を促進した。2023年11月にはIFLAアジア大会を23年振りに東京世田谷区で開催。アジア・オセアニアからオンラインを含めて約1,000人、学生たちによる国際デザインワークショップで90名が参加して多くの交流が図られた。この大会には様々な職能のランドスケープアーキテクト、行政首長、ステークホルダーなどが一堂に会して、国際間、分野間、世代間の交流を図り大きな成果を上げた。さらに、開催地世田谷区と未来の環境に対処する「共同宣言」を発表し、ランドスケープアーキテクトの今後の活動指針を示したことは大きな進歩であり、新しい時代のスタートを築いた。以上、造園界の発展に寄与してきた。

くまもとし

熊本市

受賞理由

市は、姉妹都市提携等を結んだ海外の都市に日本庭園の寄贈・修復等をおして日本文化の魅力の発信と国際交流に取り組んでいる。そのうちの一つ米国サンアントニオ市では、1987年に江戸時代前期の伝統的な庭園技法に基づいた「熊本園」を築造し、その後、数度にわたる修復事業を行い、特に2020年には、国土交通省の海外日本庭園再生プロジェクトの一環として、造園技術者を派遣した技術研修を実施し現地における継続可能な維持管理技術の伝承に取り組んだ。二つ目の仏国エクスプロヴァンス市では、日本国外では唯一となる総檜の能舞台が設置されているサンミトル公園で日本庭園の再整備に協力し、能舞台と日本庭園を活用した茶道・華道等の文化体験を催し、両市・両国の良好な関係構築に貢献した。更に令和4年春に開催された全国都市緑化くまもとフェアでは、両市に実行委員会委員としても参画し、フェアを通じて一層の交流に努め、日本庭園の魅力の発信や我が国の造園技術の普及に多大なる貢献をもたらした。

（役職は、令和7年3月31日現在）